

## 7,8. 火の概念・終末

終末と聞いてどんなイメージを持つか？Week end ではない。1999年7月、世界の終わりが来るというノストラダムスの大予言って信じた？聖書にも世の終わりについて書かれている。

### 〈ペテロの第二の手紙 3 : 7〉 p.374

不信仰な人々がさばかれ、滅ぼされるべき日に火で焼かれる時まで、…

### 〈ペテロの第二の手紙 3 : 10~13〉 p.374

→この聖句を見て人々は核戦争が起こるのではと思ったりもした。また、主の日は盗人のように襲って来るのに、天が大音響をたてて崩れ去るのはおかしくないか。来るのがバレバレ。

### 〈マタイによる福音書 24 : 29~30〉 p.40

→弟子たちがイエスに「あなたがまたおいでになるときや、世の終わりにはどんな前兆がありますか」と問い、イエスが答えたシーン。「日は暗くなり、月は光を放つことをやめ、星は空から落ち、天体は揺り動かされる。人の子が天の雲に乗ってくるだろう。」と。

### 〈ヨハネの黙示録 6 : 12~14〉 p.392

→ヨハネの黙示録は新しい時代 1000 年を預言したもの。終末が来ると天変地異が起こるのか。山と島は移されるとは？

### 〈テサロニケ人への第一の手紙 4 : 6〉 p.318

→再臨主はラッパの音とともに来て、来ると死んだ人は生き返り、生き残って入る人は雲に包まれて空中に引き上げられる。

聖書を文字どおり信じている人は、メシアが来ると空中に引き上げられると思っているので、ダイエットしたりスカートをはかなかったりする。またクリスチャンはメシアが来たら生き返るので、死んでも火葬しないで土葬する。また生き返ったとき土の中から外に知らせるために、棺桶に呼び鈴をつけたりする。

このように世の終わりには天変地異が起こると書いてある。

ここで世の終わりについての疑問を整理しておこう。

Q1 : 滅ぼされる日に火で焼かれるとは？

Q2 : 日は暗くなり、月は光を放つことをやめ、星は空から落ち、天が大音響をたてて崩れ去るとは？

Q3 : 人の子が雲に乗ってやってくるとは？

Q4 : 雲に包まれて空中に引き上げられるとは？

## 『火』

Q1 に関して、新約だけでなく、旧約にも書かれている（歴史の同時性）。〈伝道の書 1 : 9~11〉 p.921 参照

### 〈イザヤ書 66 : 15~16〉 p.1042

主は火をもって、つるぎをもって裁く。主に殺される者は多い。

→イザヤ書はキリストの預言をしているが、キリストは放火魔で殺人鬼か？

### 〈マラキ書 4 : 1〉 p.1326

高ぶる者と悪を行う者は焼き尽くされる。

→キリストであったイエスは放火も殺人もしていない。聖書は文字通りに解釈してはいけない（比喩）。

### 〈ルカによる福音書 12 : 49〉 p.111

わたしは火を地上に投じるためにきたのだ。火がすでに燃えていたならと、わたしはどんなに願っていることか。

→イエスは何をしにきたのか？放火？

### 〈エレミヤ書 5 : 14〉 p.1053

わたしの言葉を火とし、…。

### 〈エレミヤ書 23 : 29〉 p.1053

わたしの言葉は火のようなものではないか。また岩を打ち砕く槌のようなものではないか。

∴火=御言葉（神様の言葉） イエスは放火や殺人をしに来たのではなく、火のような神様の御言葉（福音）を

述べ伝えに来た。

<参照>

〈マタイによる福音書 3 : 11〉 p.3

イエスは聖霊と火とによってお前たちにバプテスマをお授けになるだろう。

〈ヘブル人への手紙 12 : 29〉 p.358

わたしたちの神は、実に、焼き尽くす火である。

**Q : なぜ御言葉が火にたとえられたか？**

<火の性質>

- ・ 燃やす → 御言葉を聞いて自分の悪い心を焼く。
- ・ 燃える → 御言葉を聞いて感動し、心が熱く燃える。
- ・ 明るい → 御言葉は真理の光を放ち、人生の暗闇の中で行くべき道を照らす。
- ・ 燃え広がる → 火は1点から燃え広がる。御言葉もイエス一人から、今では20億人にまで広がった。
- ・ 溶接する → 御言葉によって神様と人とを結びつける。
- ・ 新しく作る → 自分の霊魂、人格、性格を作る。

〈ヨハネによる福音書 3 : 16~21〉 p.139

キリストは裁き主でもあるが、根本は救い主。

部屋が汚い人は部屋に電気をつけないでという。それは電気の明かりによってすべてが露(あらわ)になるから。自分の悪い部分を御言葉の明かりによって露にし、作り直していかないといけない。

〈コリント人への第一の手紙 3 : 10~15〉 p.259

信仰の家を、何をもって建てるか。わらのような行いの信仰で建てた家は燃えてしまう。岩(イエス・キリスト)の上に建てた家は崩れない。人と比較した信仰ではなく、天の御言葉を基準とした信仰で。

〈テモテ人への第二の手紙 2 : 20~21〉 p.334

人=器。どんな小さな存在でも御言葉で自分を磨けば尊いものになれる。

火(=御言葉)で焼いて作り変えるなら、主人(=神様)に尊く使われる。

## 『つるぎ』

〈イザヤ書 66 : 15~16〉 p.1042

火とつるぎをもってくる。

〈イザヤ書 41 : 1~2〉 p.998

つるぎをもって彼らをちりのようにし、…

〈ヨハネの黙示録 19 : 11~15〉 p.405

黙示録はイエスのあとに新しい御言葉を持ってくる再臨主の預言。

口からつるぎが出ていた。とあるが、再臨主は大道芸人か？

〈エペソ人への手紙 6 : 10~17〉 p.307

神の武具の話。御霊のつるぎ=神の言

**Q : なぜ御言葉がつるぎにたとえられたか？**

〈ヨハネの黙示録 2 : 12〉 p.387

鋭いもろ刃のつるぎを持っているかたが、…

〈ヘブル人への手紙 4 : 12〉 p.346

つるぎによって表面的な関節と根本的な骨髄を切り離すように、御言葉で心の思い(精神)と志(霊魂)を見分けることができる。

もろ刃は天(形而上学的: 宗教=形のないもの: 霊)と地(形而下学的: 科学=形のあるもの: 肉)

## 『日・月・星』

### Q2であったように天変地異は起こるのか？

R も何でだろう、と祈って求めた。とことん追求した人だった。聖書一読してもわからなかったので何回も読んだ。するとヒントが見つかった。

〈創世記 37 : 5~11〉 p.51

ヨセフの夢。束がヨセフを拝み、日と月と 12 の星が私を拝んだ。

日=父、月=母、星=兄弟

時代に当てはめると、旧約は日月星の順に、モーセ、聖職者 (祭司長)、モーセに従う人、新約はイエス、聖職者、イエスに従う人、新しい時代は再臨主、牧師、再臨主に従う人。

### Q : 日月星が落ちたとは？

ろうそくと蛍光灯と太陽のたとえで、暗闇ではろうそくは光り輝くが、蛍光灯、太陽の前では輝きを失う。モーセの律法では殺すな、イエスは憎むことも殺すこと、イエスは比喻を使って話したが、再臨主は比喻を使わず、直接解いて話す。

### 終末=時代の転換期

※時代を話したら縮小して自分に当てはめさせる。

季節はこの日から春みたいには急には変わらない。自分自身が転換期だとはっきりわからないといけない。まず学んでいなかった聖書を学んでいることが転換期。気をつけないといけないのは、古い季節にこだわってあきが来たのに半そでしていると、風邪をひく。古い自分にこだわっていると、変われない。でもすぐには変われない。もがくシン荒野の時期が必要。ユダヤ人はメシアが来たらすぐ変わると思っていたので誤解して殺してしまった。季節の変わり目は風邪をひきやすい。今どの時期にいるのかが大事。新しい時代に入ったところ。ではどうしたらいいのか。イエスがどうきたのかを知れば、再臨主がどう来るのかわかる。

## 『雲』

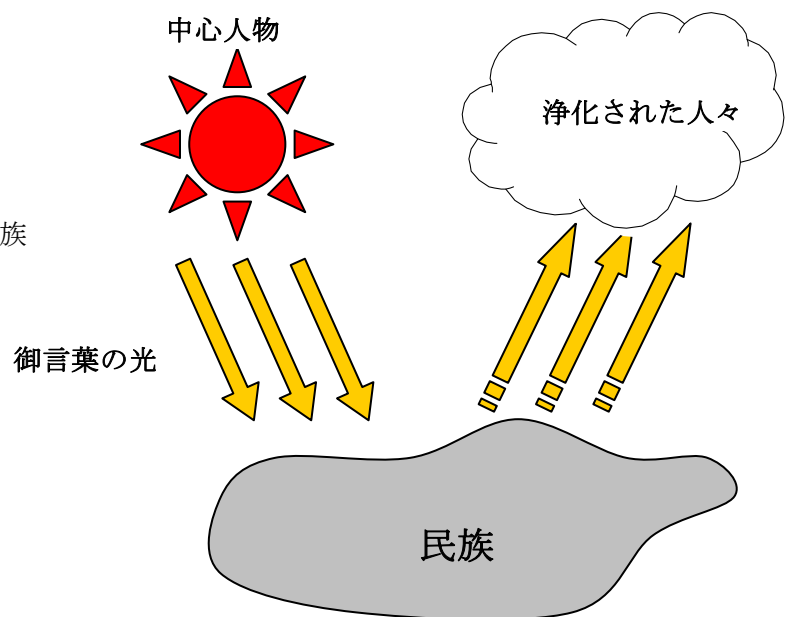
〈へブル人への手紙 12 : 1〉 p.356

多くの証人に雲のようにかこまれて…。

∴雲=人

〈ヨハネによる福音書 17 : 15〉 p.403

水 (淫婦のすわっているところ…汚れている) = 民族  
モーセの御言葉で浄化されたユダヤ教のイスラエル民族  
の中からイエスが来た。イエスの御言葉で浄化された  
キリスト教徒の中から再臨主が来る。



### ※空中引き上げについて

人間の目から見たら、空中は空だが、神様の目から見たら地球も宇宙に浮いているから空中。

肉的に引き上げられるのではなく、霊的に引き上げられる。

聖書は拡大したら時代・歴史の話。広い視野も必要。縮小したら個人の話。

<参考>

昔は聖書一本で聖書の話をお聞きませんか。と伝道していたが、だんだん長い御言葉に耐えられない人が出てきたので、端的に核心的に伝えるようになった。

聖書にも世の終わりがあると書いているが、どう思うか？ないと思うがあったら怖い。

マタイ 24 : 29~30

こんなことが起こったら人々は生きていけない。人の子=メシア

時代の図を書く。結局時代を話さないといけないので、全体の流れを把握して。

日・月・星が落ちたら大変。人の子が雲に乗ってやってくるとは？

テサロ 4 : 16~17

空中引き上げ

ペテロ 3 : 10~12

メシアがくると天変地異。

クリスチャンや旧約のユダヤ人も文字どおりといている。

イエスが本当にそのように来たか。

伝道の書 1 : 9~10

時代性。

旧約ではどう書かれていたか

イザヤ 13 : 9

ダニエル 7 : 13

イエスが雲にのってやってきたのでしょうか。普通に母マリアから生まれてきた。だからイエスは偽キリスト、偽預言者だと言われた。

66 : 15~16

つるぎで殺した。

R も何でだろう、と祈って求めた。とことん追求した人だった。聖書一読してもわからなかったので何回も読んだ。

日・月・星が落ちるのは

創世記 37 : 5

ヨセフの夢。東がヨセフを拝み、日と月と 12 の星が私を拝んだ。日よとどまれで読ませてもいい。

日月星や火、雲などが今後出てきたら何だったかと聞いて復習させる。伝えている人が違うとどこまで伝えているかわからないので。

日=父、月=母、星=兄弟

時代に当てはめると、旧約はモーセ、聖職者（祭司長）、モーセに従う人、新約はイエス、聖職者、イエスに従う人、新しい時代は再臨主、牧師、再臨主に従う人。

日月星が落ちたとは…

ろうそくと蛍光灯と太陽のたとえで、暗闇ではろうそくは光り輝くが、蛍光灯、太陽の前では輝きを失う。

モーセの律法では殺すな、イエスは憎むことも殺すこと、イエスは比喩を使って話したが、再臨主は比喩を使わず、直接解いて話す。

終末=時代の転換期

※時代を話したら縮小して自分に当てはめさせる。

季節はこの日から春みたいに急には変わらない。自分自身が転換期だとはっきりわからないといけない。まず学んでいなかった聖書を学んでいることが転換期。気をつけないといけないのは、古い季節にこだわって秋が来たのに半そでしていると、風邪をひく。古い自分にこだわっていると、変わらない。でもすぐには変わらない。もがくシン荒野の時期が必要。ユダヤ人はメシアが来たらすぐ変わると思っていたので誤解して殺してしまった。

季節の変わり目は風邪をひきやすい。

今どの時期にいるのかが大事。新しい時代に入ったところ。ではどうしたらいいのか。

イエスがどうきたのかを知れば、再臨主がどう来るのかわかる。

雲で来るとは

ヘブル 12 : 1

多くの証人に雲のようにかこまれて…雲は人にたとえている。

黙 17 : 15

水＝民族

雲のでき方の図

モーセの御言葉で浄化されたユダヤ教のイスラエル民族の中からイエスが来た。

イエスの御言葉で浄化されたキリスト教の中から再臨主が来る。

空中引き上げ

人間の目から見たら、空中は空だが、神様の目から見たら地球も宇宙に浮いているから空中。

火

ペテロⅡ 3：10～12

テサロⅡ 1：7

イエスはどうか来たか。

イザヤ 66：15

イエスは放火しなかったはず。

ルカ 12：49

：イエスは放火したか？

Rはヒントを見つけた。

エレミヤ 23：29

私の言葉は火のようではないか。火＝御言葉

ゆえに以上の部分も納得できる。御言葉によって岩のような固定概念を持った人も打ち砕く。

なぜ火にたとえたか？火の性質は…

- ・ 熱い 御言葉聞いたら頑張ろうと熱くなる。
- ・ 明るい 御言葉は人の心に行く先の光をてらす。御言葉は真理の光で導く。
- ・ 燃やす 人間の悪い心を燃やす。御言葉で自分と向き合うから。マタイ 3：17のように火で悔い改めさせる。
- ・ 燃え広がる イエス一人から世界中に伝わった。
- ・ 溶接 人間と神様をつなぐ。
- ・ ものをつくる 熱いときにしか形が変わらないように、御言葉で感動した時にすぐ実践しないと変わらない。

再臨主も放火犯をチェックしても解けない。イエスの御言葉の比喻を解きに来る。

つるぎとは？

ヨハネの黙示録 2：12

諸刃のつるぎを持っている。

御言葉は刺さる。諸刃は天（形而上学的：宗教＝形のないもの：霊）と地（形而下学的：科学＝形のあるもの：肉）

ここで御言葉をしっかり聞いているかチェック。ちゃんと覚えているか。

聖書は拡大したら時代・歴史の話。広い視野も必要。縮小したら個人の話。